

- 1 課題名 シラスの漁場形成機構の解明と漁業者への情報提供
- 2 区分 県単
- 3 期間 平成19年～平成21年度
- 4 担当 資源海洋部
(安江尚孝・吉本 洋・吉村晃一・土居内 龍・竹内照文)

5 目的

本県西部海域におけるシラスの漁場形成機構を解明するため、シラス漁場の海洋環境およびシラスの食性を明らかにする。

6 成果の要約

1) 試験方法

下芳養湾をモデル水域(図1)として、2008年4月22日にシラス漁場調査を行った。

- (1) クロロテック(アレック電子株式会社製)を用いて水温および塩分を測定した。
- (2) 北原式定量ネットを用いて動物プランクトンを採集し、種の同定と計数を行った。
- (3) パッチ網(和歌山南漁業協同組合所属の当業船)にてシラスを採集し、その消化管内容物を分析した。

2) 成果の要約

- (1) 下芳養湾の表面水温は17.6℃から18.9℃、底層は17.1℃から18.8℃であった。また、表層塩分は24.73から34.37、底層塩分は34.20から34.38であった。
- (2) 動物プランクトンにおいて、最も優占していたのはカイアシ類のノープリウス(38.0%)で、オイトナ科(21.5%)、ツリガネカラムシ科(12.6%)の順であった。
- (3) 28個体のカタクチイワシシラスを解剖した結果、20個体のシラスが餌を捕食していた。シラス1個体の消化管からの動物プランクトン出現数は平均8個体であり、オンケア科(68.8%)、カラヌス目(特定できず)(9.4%)、オイトナ科(8.8%)の順が多かった。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

水産試験場業務説明会(2009年3月11日、和歌山市と湯浅町)にて発表した。

(3) 成果の発表

特になし



図1 下芳養湾の調査点